

『令和6年度「労働災害防止会議」の開催』

岩手南部森林管理署遠野支署は、国有林野事業における労働災害防止のため、毎年「労働災害防止会議」を開催しています。

今年度も事業の最盛期を迎える、参加者の意識を高めることで労働災害の防止に万全を期すこととし、7月4日に会議を開催し、総勢38名の方に参加いただきました。

過去の労働災害の発生状況をみると、令和5年度の東北森林管理局管内における請負事業体の労働災害は22件発生しており、令和2年から減少傾向ではあるものの、重大災害は毎年発生していることから、引き続き労働災害の防止のため、禁止事項は絶対行わない、保護具は確実に装備する、といった基本的な事項の徹底が必要な状況です。

会議では、類似災害の発生防止のため、過去の労働災害の発生状況を参加者全員で確認しました。当支署では、今年度、請負事業体の労働災害が発生していることから、さらなる注意が必要なこと、気を緩めることなく取り組むことが必要であることも確認しました。

釜石労働基準監督署の原田稔署長から、労働災害の発生状況について、熱中症対策について、正確に作業指示を行う場合は、抽象的ではなく具体的な作業をイメージすることの大切さについて、などなど多岐にわたる内容をお話しいただきました。

私は、正確に作業指示を行うことの難しさに関するお話しが印象に残りました。「〇△□ー」を紙に書いてください。」との指示に対して、人によって様々な対応を行う可能性があることを実感し、具体的に作業指示を行うことの大切さを理解できました。

参加された皆さんが熱心に講演を聴いている姿から、安全への意識の高さを感じられる会議となりました。



【原田署長の講演の様子:わかりやすい資料で丁寧にお話しいただきました。】